

■アンモニア消臭試験

【実施内容】

シルキーファインバブルランドリーホース（JLH-SN1・JLH-SN2）を具備した系を試験区、具備しなかった系を対象区として、アンモニア除去に関する比較検討した。なお、ホースに掛かる圧力は水道圧とした。

※ アンモニア：一般社団法人 繊維評価技術協議会「臭気カテゴリー」の汗臭、加齢臭、排泄臭、タバコ、生ごみ等にアンモニアが位置している。

【実験系】

靴下をアンモニア水 10 mL が添加された密閉瓶に入れ、アンモニアを吸着後、洗濯機で洗濯した。洗濯後、密閉できる袋に靴下を入れ、アンモニアの気体採取器を用いて残留アンモニア濃度を測定・評価した（写真）。



写真 実験の流れ

【結果】

図に残留しているアンモニア濃度を示す。残留量は JLH-SN2 < JLH-SN1 < 水道水の順であり、水道水に対して JLH-SN1 では 11.1 %、JLH-SN2 では 37.5 %、JLH-SN1 に対して新型は 25 %の除去向上をそれぞれ示した。

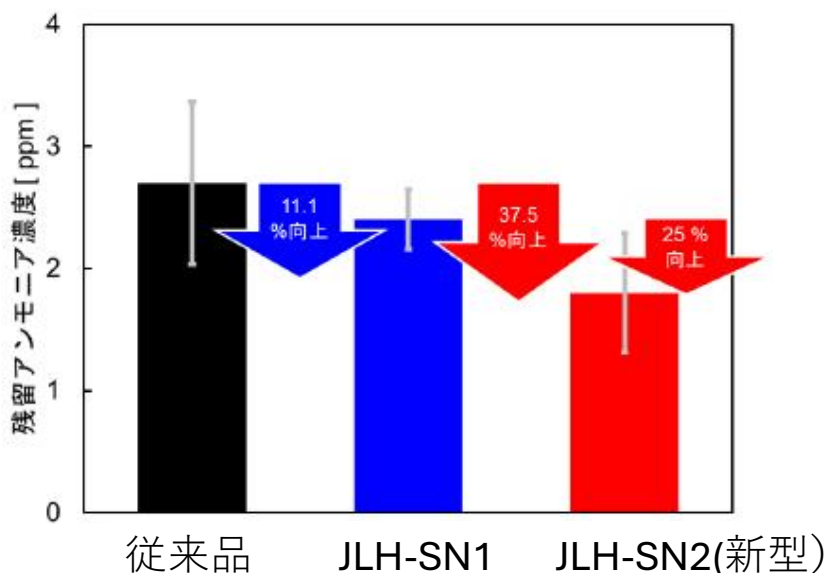


図 各実験系での残留アンモニア濃度 (n=5 の平均値)

シルキーファインバブルランドリーホース (JLH-SN2)

1. 消臭試験

臭気成分例 (一般社団法人 繊維評価技術協議会「臭気カテゴリー」参考)

成分	汗臭	加齢臭	排泄臭	タバコ	生ごみ
アンモニア	○	○	○	○	○

アンモニア成分は消臭しなくてはならない臭いの原因成分の中に含まれている成分となるため、アンモニアを消臭することが可能であれば、消臭効果は得られるものと判断することができる。

2. 試験準備及び試験の流れ

①白ソックス

一足のソックスを半分に切断し使用する



②気体採取器 GV-100



アンモニア (3L)

測定範囲

「1~3ppm」



③特級 アンモニア水 28%



④270ml の密閉ビンに入れた
アンモニア水 10ml に入れ 15
分間放置後試験に用いた



⑤洗濯機

IRIS OHYAMA

6.0kg IAW-T605WL

洗濯条件: 水量 23L 洗い 5
分 すすぎ 1回 脱水 1分



シルキーファインバブルランドリーホース (JLH-SN2)

⑥洗濯

洗濯槽ソックス投入



密閉ビン取出し、洗濯槽内にセット



洗濯後、濡れた状態で密閉袋にセット



⑦ソックスは伸ばしてセットする



洗濯後に白靴下に残存するアンモニアを測定

⑧密閉袋へ検知管を差し込み、気体採取にて吸引し、反応値を読み取る



⑨アンモニア反応例

アンモニアが反応すると黄色く変色する
この値を読み取りアンモニア残存濃度とする

